

5-3 東海地方における地震活動の変化

On the Seismic Activity in the Tokai District

気象庁地震予知情報課
Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

第1図に最近5年間の東海地方における地震活動の分布を示す。これは、この地方をA・B・Cの3領域に区分(太実線)、それぞれの領域における活動の変化を監視するためのものであるが、東海地震の想定震源域を含むB領域が中心となる。ここに示したものは、M3.0以上で深さ60km以浅の地震についての①：震央分布、②：時空間分布、③：M-T図、④：地震回数積算図などである。

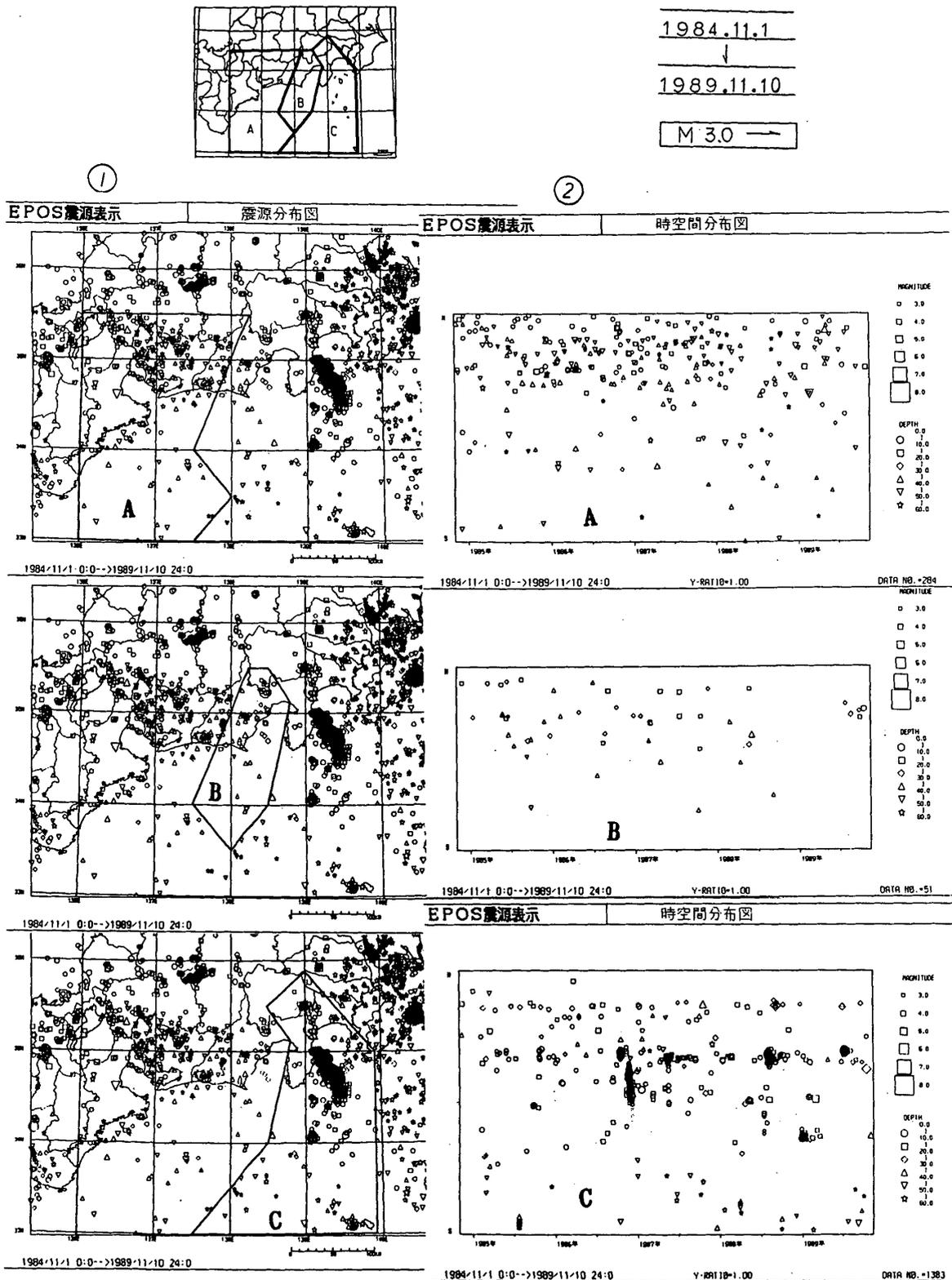
B領域では、昨年後半から御前崎南方沖のM3.3(9月4日)を除いて、M3クラス以上の地震発生がみられなかったが、本年7月に入って以降、これまでに5個の地震*が発生した。しかし、これらはいずれも静岡県中部の一定の範囲に限られており、この領域の留意すべきパターンがこれで解消されたとは考えにくい。引き続き今後の活動の推移には注意していく必要がある。

A及びC領域については、活動に若干の変化は認められるものの、B領域で示されているような特段の変化はない。

第2図は、トラフ近傍で最近発生した主な地震(M3.5以上)のメカニズム解である。①と②は静岡県中部で発生したもので、いずれもほぼ東西圧縮の逆断層であるが、②は深さが3kmと浅い。③は駿河トラフと南海トラフの折れ曲がるところで発生、ほぼ南北圧縮の横ずれとなっている。ここは、この5年間の震央分布図(M3以上)にみられるように、空白的な海域となっていた。この3個の地震はいずれも有感で、最大震度は①及び②とも2(静岡)、③は1(大島・三宅島)。活動監視のための参考図として示した。

注1：第1図脚注に示した他機関データ使用表示は、1989年7月1日分から(暫定)。

注2：*の地震は、7月23日10時26分のM3.1(深さ20km)・8月19日13時45分のM3.7(同24km)・9月24日02時55分のM3.1(同24km)・9月28日07時06分のM3.1(同20km)・10月14日21時57分のM3.9(同3km)。



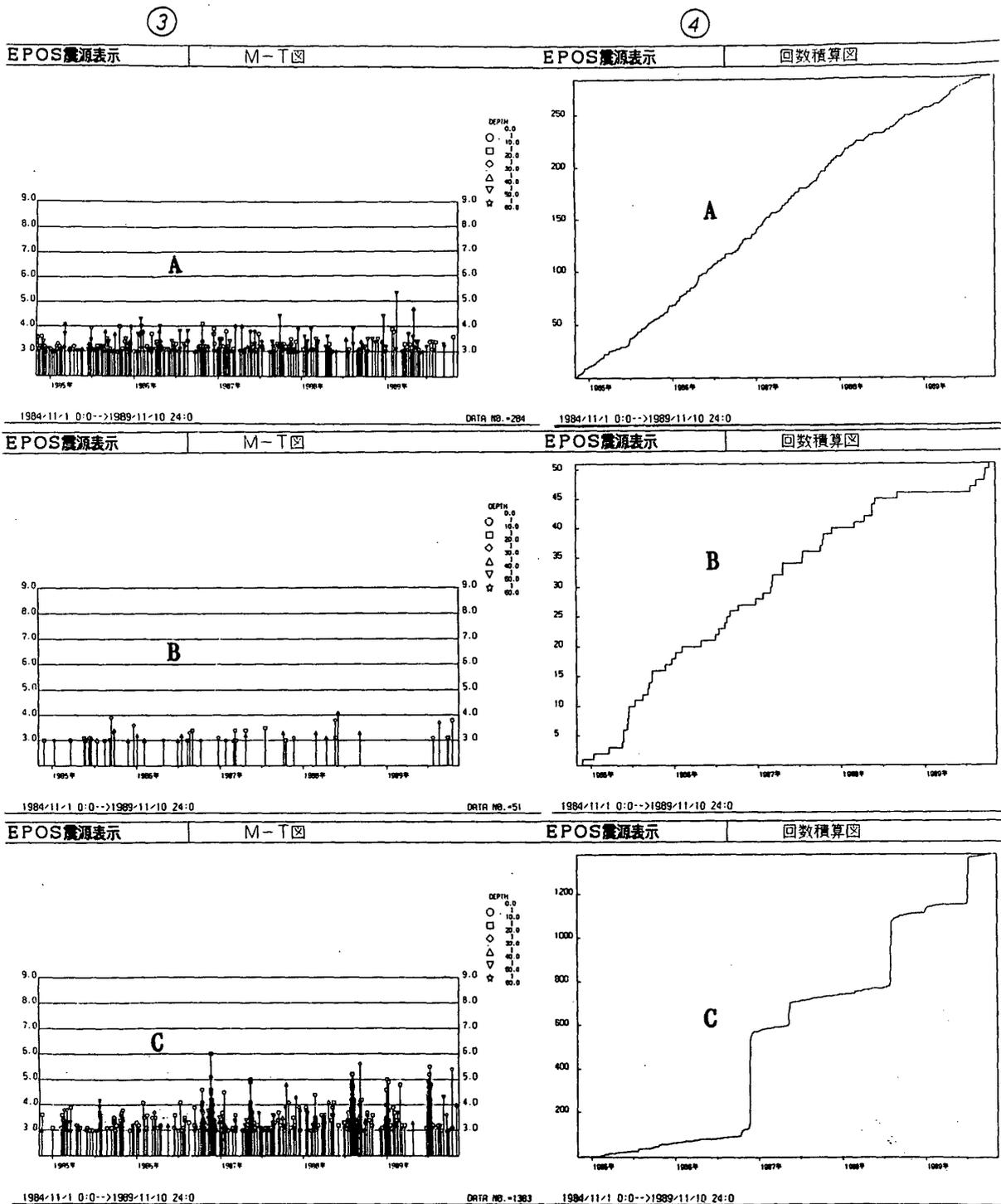
(気象庁・東京大学・名古屋大学・国立防災科学技術センター資料による)

ザンティ '89.7.1

第1図 東海地方のA・B・C領域における地震活動 (1984年11月1日～1989年11月10日: M3.0以上)

①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (Nov. 1, 1984 – Nov. 10, 1989: $M \geq 3.0$).
①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.



第1図 つづき

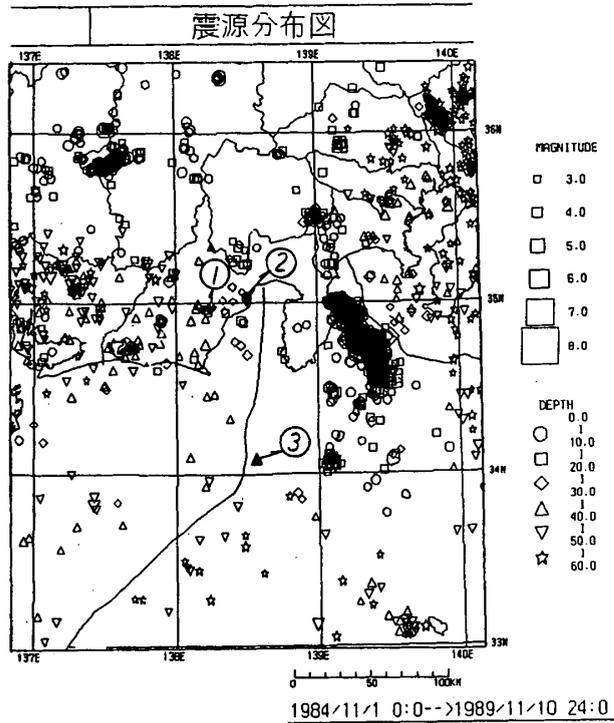
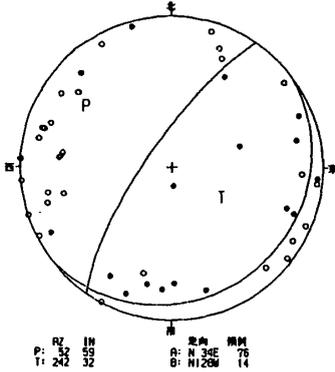
Fig. 1 (Continued)

＝メカニズム解＝

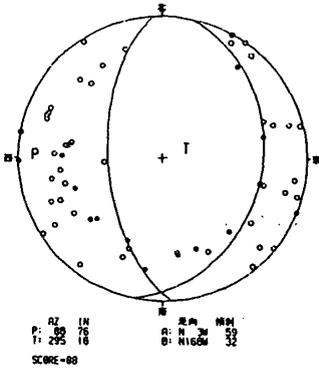
(上半球投影)

●: UP
○: DOWN

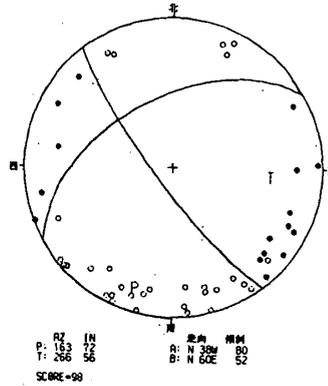
① '89. 8. 19 13:45
M3.7 (24 km)



② '89. 10. 14 21:57
M3.9 (3 km)



③ '89. 11. 1 04:49
M4.0 (40 km)



第2図 地震のメカニズム解 (上半球投影)

①: 1989年8月19日・M3.7, ②: 1989年10月14日・M3.9, ③: 1989年11月1日
4.0 ●: 押し, ○: 引き

Fig. 2 Focal mechanism solutions (Projected on the upper hemisphere).

①: Aug. 19, 1989, M3.7, ②: Oct. 14, 1989, M3.9, ③: Nov. 1, 1989, M4.0.
●: up, ○: down.